松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和８年度　第４回支援研究部会	開催日：令和８年 10 月 26 日（月） 時　間：13:30～15:00
参加者構成機関名 配布資料参照 (長野県相談支援専門員協会　相談支援従事者現任研修より参加者３名を含む) 計１４名	

会議内容

1.　シンポジウムについて

　今年度のシンポジウムは開催を見送り、地域課題や研修の目的を改めて整理した上で、次年度以降の開催を検討することとなった。

2. 検討した内容

（1）カスタマーハラスメントについて

　近年、福祉分野においてもカスタマーハラスメントが課題となっている。支援研究部会としては、カスタマーハラスメントに至らない、その背景に着目する支援の在り方を考えることが重要であるとの意見があった。

（2）発達保障と障がい観について

　支援の在り方を考える上で、過去の部会でも取り上げられた「発達保障」という考え方が改めて検討された。支援者が一方的に「教える」「伸ばす」「引っ張る」のではなく、「今、何が必要なのか」「何が保障されれば変化につながるのか」を考えることが大切であり、そのためには、人の発達を理解する必要があるとされた。また、具体的な支援方法や技術を考える前に、そもそも障がいをどのように捉えているのかという「障がい観」を見つめ直すことが重要であるとの意見があった。

（3）今後の研修内容と開催方法

　講師による学習会のほか、少人数のグループで課題や実践を持ち寄り、意見交換する方法が提案された。今後も地域で共有すべき課題や学ぶ必要のある内容を整理し、研修の企画につなげていくこととした。

2.　各連絡会等からの報告

（1）生活介護事業所連絡会

　強度行動障がいのある方への支援など、各事業所の取り組みや課題について情報交換を行った。参加者からは、医療的ケアや強度行動障がいなど、複数の分野に関わる課題もあることから、事業所間のつながりを深めるため、連絡会の開催頻度を増やしたいとの意見があった。また、互いの事業所を見学することで、新たな課題の発見や交流につながるのではない

かとの提案があった。

（2）グループホーム連絡会

令和８年 11 月 24 日に開催を予定している。

今回は世話人さんを対象に、複数の支援場面を提示し、それぞれの考え方や対応について意見交換を行う予定である。世話人さんが他事業所の実践に触れることで、自身の支援を振り返る機会とすることを目的としている。

（3）居宅介護支援事業所連絡会

12 月までに企画案を検討し、開催に向けて準備を進める予定である。

また、今後は他の連絡会との合同開催も視野に入れ、共通する課題について、事例や実践例を通じて検討する方法が提案された。

（4）医療的ケア連絡会

６事業所が参加し、各事業所の支援体制や取り組みについて情報交換を行った。その中で、医療的ケアに対応できる事業所や利用可能なサービスが分かりにくく、必要な情報が支援者や保護者に届きにくいことが課題として挙げられた。こうした課題に対し、支援者間で情報を整理し、利用できるサービスや支援体制を見える化する必要性が共有された。また、松本市内だけでなく、松本圏域全体で取り組むことが重要との意見があった。

（5）強度行動障がいプロジェクト

プロジェクトの取り組みとして、入所支援施設同士が交流し、情報や意見を交換する場を設ける予定である。今後も取り組みの内容について、部会で情報共有を行っていく。

（6）地域全体の支援力の向上

事業所によって支援力に差があり、居場所の提供にとどまっている事業所も見受けられるとの意見があった。事業所数が増える一方で、支援の質に懸念がある事業所もあり、地域全体の支援力をどのように高めていくかが課題として挙げられた。また、地域課題を見える化し、共有する機会を設けることで、支援者が前向きに取り組めるようになるのではないかとの意見があった。現場から寄せられる意見についても、その背景にある切実な思いや問題意識を踏まえ、地域課題として捉えていく必要性が示された。

3. 次回に向けて

次回の部会では、「どのような支援があれば支援者が元気になれるのか」という視点から、具体的な方策を各自検討し、持ち寄ることとなった。

具体的な方策が思い浮かばない場合には、日々の実践で感じている問題意識や地域課題を持ち寄ることとした。

以上